

# 清流

題字：芳野 充

令和2年4月30日  
第40号

発行所 加来不動産㈱  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 失敗を認め、自分をみつめる

わたしは未だに、失敗や非を認めず、言い訳をする場面があります。家庭のなかでは、たまにわたしが料理をつくることありますが、子どもから「味がうすい」など言われたときは、「健康に気づかってうす味にしとるんよ」と、反射的に言い訳をします。あるいは、仕事のなかでも、依頼された業務の期限を過ぎてしまった際、段取りの悪さや、そのこと自体忘れていたにも関わらず、詫びるよりも先に「色々忙しかった」と、情けない言い訳を以前はよくしていたように思います。

「謙虚さがなくなる兆候」の十三番目には、「言い訳が多くなる」とあります。わたしが言い訳をする場面を思い返し、そのときの心情を冷静にみてみると、「失敗を認めたくない」「注意されイヤな思いをしたくない」「ダメなやつだと思われたくない」などと、自分が傷つかないための過剰な防御策だということに気づかされます。しかし、よくよく考えると最終的にそれは、自分の株を大きく下げることになります。

素心学塾塾長の池田繁美先生は、自身も謙虚さをなくした苦い経験から、その失敗を繰り返してほしくない、「謙虚さ」や「素直さ」の重要性を説かれております。

小学生向きではありませんが、『言いわけ禁止！心を鍛える教え』（齋藤孝著・PHP研究所）という著書に、いい当てた一節がありました。「素直な人は、人の意見に耳をかたむけることができる。中略素直じゃない人は、カラに閉じこもって本当の自分を見ようとしていないだけ。そんな人にかぎって、言いわけをくり返す。そのうち言いわけはウソに変わり、さらに取り返しつかない大きなウソをつかなくちゃならなくなるのだってある。そしてそのウソがばれたとき、その人はもっとも大切な『信用』を失うことになるんだ」。

過去には何度となく、言い訳で失敗した経験があるだけに、身につまされる思いがします。しかし気づけば今でも「言い訳」をする場面があります。人からの意見や忠告、そして自分が望んだ結果が出なかった場面においても、まずは失敗を認め、自分を見つめる。そして、その失敗や非を人や環境のせいにするのではなく、自分のなかの心の弱さや、謙虚さのなさを反省し、つぎに活かす行動をとっていききたいと思えます。

加来 寛

